教員名	杉野　勇 (SUGINO　Isamu)
所　属	文教育学部人間社会科学科応用社会学講座
学　位	社会学修士(1992,　東京大学)
職　名	講師
URL　／　E-mail	

◆研究キーワード

民事紛争　／　ワークファミリーバランス　／　社会調査　／　社会階層

◆主要業績

・与謝野有紀・栗田宣義・高田洋・間淵領吾・安田雪（編）, 2006.7,
『社会の見方、測り方――計量社会学への招待』, 東京: 勁草書房. (分担執筆)
・村山眞維・松村良之　(編), 2006.12, 『紛争行動調査基本集計書』, 東京: 有斐閣学術センター. (分担執筆)
・杉野勇, 2006.6, 「ワーク・ファミリー・フィットの尺度構成――仕事と家庭の軋轢と相互促進」,
『現代社会学研究』, 第 19 巻, pp. 1-20.
・杉野勇, 2007.3, 「家庭生活と職業生活の相互影響関係」,
『中年女性のライフスタイルと危機的移行――第二次パネル調査報告書』, pp. 66-79.

◆研究内容

前年度から引き続き、日本法社会学会初の大規模標本調査プロジェクトである民事紛争処理実態調査、インテンシヴ・インタヴューによる個別事例調査研究である司法についての当事者ニーズ研究、お茶の水女子大学 21 世紀 COE プログラム「誕生から死までの人間発達科学」の一環である小田原パネル調査におけるワーク・ファミリー・フィット研究、そして、10 年ごとに行われている日本の社会学界の代表的な継続的全国調査の第 6 回目にあたる「社会階層と社会移動全国調査プロジェクト」(SSM2005)における女性のライフコース・ライフスタイル研究に従事。

◆教育内容

2006 年度は、学部の社会学の入門的講義では、コミュニティにおける規範、評判、インフォーマル・サンクション、社会資本といった基本的な社会学的視角、弱い紐帯の理論、予言の自己成就や準拠集団論、社会的ジレンマなどの代表的な社会学説・社会学理論を解説した。社会調査についてのメディア・リテラシーについても例示した。演習においては、女性と労働をテーマとして、ケーススタディ、計量的研究についての学習を行った。男性学や結婚の経済分析、シグナリング理論なども扱った。社会調査法の授業では、調査票の作成からデータ収集と計量分析までの全プロセスを年間を通じて実施した。2006 年度の大学院の演習では、種々の社会学理論や経験的分析手法とその実例を幅広く学んだ。

◆Research Pursuits

I am engaged in several survey research projects. The first one is the largest nationwide survey research in Sociology of Law concerning the civil "justiciable problem" in everyday life, and the second is the qualitative research on legal needs among ordinary people. These two researches are linked to each other, and I focuses on the employment problems. The third survey is the Odawara panel survey as part of Ochanomizu University's COE, in which I study the Work-Family fitness for middle aged women. The last is the 6th "Social Stratification and social Mobility survey". This is the most well-known longitudinal national survey in Japanese Sociology, and I work on the life course, life style of the female.

◆Educational Pursuits

2006, undergraduate course:
Introduction to Sociology-- norm, reputation, informal sanction, social capital in Community. Media literacy or research literacy. The weak/strong ties, self-fulfilling prophecy, reference group, social dilemma, the empirical way to study social stratification and inequality, etc.
Social Research Method and Practice: Experiencing the whole process of social survey; Making questionnaire, data collection, and statistical analysis.
Seminar: Case Study on Female Working Life, Sociometrics of female labor market, Men's Study, history of "Men", Law & Economics of Marriage, etc.
Graduate course: A wide variety of Sociological Theory, empirical research, and their exemplary studies.

◆共同研究例

民事紛争全国調査及び雇用問題経験に関するケーススタディ （法学者との共同研究）、中年期女性のライフスタイルについてのパネル調査（教育学や心理学研究者との共同研究）など。

◆共同研究可能テーマ

・民事紛争処理プロセスについての経験的調査研究
・ワークライフバランスについての調査研究
・雇用問題の実態と対処行動、解決についての事例研究

◆将来の研究計画・研究の展望

1）民事紛争処理についての実態調査の分析･研究 （法の主題化､雇用問題）を引き続き 2008 年まで継続して行い、全プロジェクトが終了する 2009 年 3 月のまとめを目指す。
2）ワーク・ファミリーフィット研究の二時点パネルデータに基づく計量分析を行う。
3）「2005 社会階層と社会移動全国調査」のライフスタイル班に所属し、ワークライフバランス研究の視点からデータ分析を行う。

◆受験生等へのメッセージ

私たちは、しつけや教育などの「社会化」を経なければ、きちんとした「社会人」になれません。その意味で「規範」や「常識」を内化することはとても重要です。しかし同時に、そうした規範や常識の手前で立ち止まってそれを対象化してよく考えてみることも、特に青年期に於いては極めて重要です。2005-6 年以降、マスメディアの信頼性が大きく揺らぐ出来事が続きました。従来より更に明白に、経験的・実証的な証拠や事実に基づき、論理的・分析的に思考をするということの重要性が強調されるべきである様に思われます。他方で、規範や常識、趣味嗜好・選好の社会的鋳型などの「社会的なもの」とは、自分のアイデンティティと呼ばれるものを形成する重要な要因です。その意味では、社会の理解と自己の理解は不即不離であり、社会学を通して自己を研究する事は非常に面白く、時に少し淋しさも憶える様な、曰く言い難い営みになるでしょう。